

飛騨牛の担い手育成へ充実

繁殖研修施設に専用部屋 飛騨市

飛騨牛の生産基盤強化と担い手の育成を図る飛騨市古川町中野の飛騨牛繁殖研修施設「ひだキャトルステーション」に研修室が設けられ、20日に関係者らの視察が行われた。



牛舎の一部を改装して設けられた研修室。飛騨市古川町、ひだキャトルステーション

視察が行われた。

同施設は飛騨牛の生産に関わる人や技術、施設などの充実を目指し、JAひだ市、JA全農岐阜でつくる「ひだキャトルステーション」が2019年に開設した。繁殖牛舎や子牛育成舎などがあり、生まれた子牛を育てて出荷するとともに研修生が新たに畜産に携わるための知識や技術などを2年の課程で習得している。

研修室は、研修生の教室や会議室、休憩などに利用する部屋で更衣室も含めて20平方メートルほどの広さがある。

り、牛舎の一部を改装して造られた。これまでは同社の事務所などを研修に使っていたことから、専用の部屋を設けた。

視察には同JAの谷口壽夫組合長、都竹淳也市長、JA全農岐阜の西村寿文県本部長らが訪れ、施設と業務の状況を確認した。

今年4月から研修を続ける鈴木愛生さん(19)は高山市に「祖父母が飛騨市で行っている牛の繁殖を引き継ぐ」と思い、研修している。出産などでの難しい作業はあるが、動物と触れ合うことは楽しく、やりがいのある仕事と感じている」と話した。

(一川哲志)